

第2回ミニセミナー

「こみっと」を開催しました！

今号では、8月3日(火)に行われたミニセミナーの主な内容について紹介します。

テーマ「通常学級の気になる児童生徒への対応について～チームでの取組～」

小笠原教育専門監の講話から、チームで支援に取り組む校内体制についてチェックシートで自校の取組を振り返りました。「校内委員会の設置と開催」「個別の指導計画・支援計画の作成と活用」などのより充実を図りたい視点について確認する機会となりました。

事例紹介では、本校職員の岡崎から小学校での取組について紹介しました。特別支援教育アドバイザーや通級指導教室の担当、養護教諭などと連携し、チームとして支援に当たることで、担任の心に余裕ができ、子どもの言動の背景を客観的に分析できた結果、児童の変容につながった好事例が紹介されました。具体的な連携の仕方について紹介があったことで、チームによる支援の重要性を再確認できました。



コロナ禍で、見合わせていた教育相談を再開しました。進学・就学に向けて、早めの準備を進めていくことが大切です。本校について詳しく知りたい、進路を迷っているなどがありましたら、お気軽にご相談ください。



病気の子ども、
クラスにいま
せんか？

病気により、学習や学校生活に不安を抱えている病気の子どもに対する支援についての情報提供や、相談支援も行っています。

- ・入院や自宅静養で欠席が多い
- ・体調不良で授業参加が難しい
- ・登校できるが健康面や身体面、活動ペースに配慮が必要 など

早期からの職業教育の充実について



本校では、早期からの進路学習と中学部段階からの職業教育に取り組んでいます。

県内の特別支援学校高等部を卒業した方は、就職や福祉サービス利用等で社会生活をスタートする方が9割を超えます。その後の職場定着や生活の安定に向け、在学中の職業教育は大切な要素です。また、この場合の職業教育では、特別な技術の習得ではなく、将来の職業生活に結び付いていく基盤づくりが大切になります。休まず通う体力、笑顔の挨拶、ルールやマナーの理解、働く体験を通した自己理解など、少しずつ、確実に準備していくことがその後の確かな力につながっていくものと考えます。

本校の取組について、各校に配付させていただいたリーフレット「はじめよう職業教育」をご覧ください。(進路指導主事 由利和也)



教えて！
専門監②

肯定表現で、子どものやる気を高めましょう

子どもは、「〇〇しないでね」などと否定表現で言われると、言われたように失敗してしまうことがあります。大人は、子どもの成功をほめたいのに、「だから、言ったでしょう！」と、また叱ってしまいがちです。

どうやら、脳は否定表現で言われると、その状況を肯定的に捉えてから消去しようとする傾向があるようです。「こぼさないように運んでね」は、初めは、こぼしている様子をイメージしてしまいます。「しっかり持って運んでね」は、初めからしっかり持っている様子をイメージできます。脳はイメージしたように行動してしまう傾向があるので、否定表現の場合、結局、失敗してしまうことが多い、ということになるようです。

子どもに限らず、例えば「ラーメンばかり食べすぎないでね」と言われると、ラーメンを食べているイメージが浮かび、それを否定しようとするのですが、よけいに食べたくなることがあるでしょう。相手に与える心理面でも、「土足で入らないでください」は、指示や注意の度合いが強く感じられますが、「スリッパに履き替えてください」の方が、素直に行動できそうです。

子どもを従わせようとする、否定語を重ねてしまうこともあります。肯定的で具体的な言葉を使うようにして、子どものやる気を高めましょう。

では、言い換えてみましょう。

- 「あぶないから、やめなさい！」 → 「？」
- 「おしゃべりしないよ！」 → 「？」
- 「片付けないと、ごはん食べられないよ！」 → 「？」



前期が終了し、後期がスタートする時期となりました。後期の学習に向けて、「個別の支援計画」等の教育計画を見直してみましよう。



特別支援教育に関わる情報提供や相談等、お気軽にお問合せください。

教頭：仲山智 教育専門監：小笠原英紀 地域支援部主任：船山真生

TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681

ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>

E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp